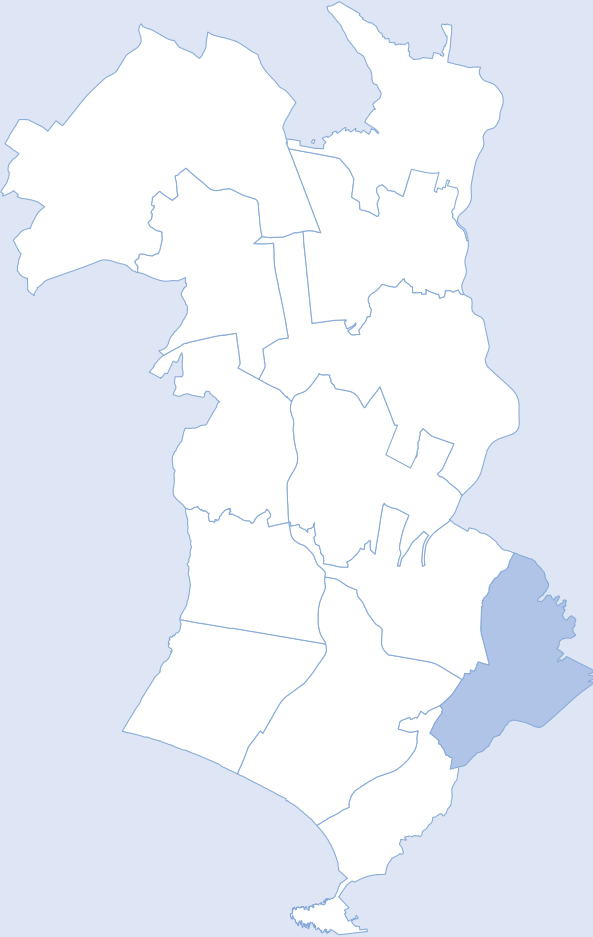


4

村岡地区構想

MURAOKA AREA



現況と課題

1 現況

村岡地区は、1941年(昭和16年)に藤沢市に合併した後、1957年(昭和32年)の藤沢総合計画により、地区北部は「より住み良い」ところとして住宅地に、JR東海道本線沿線は「より働きやすい」ところとして工業地に位置づけられ、現在では、地区北部では低層住宅地、JR東海道本線沿線では工業地、工業と住宅の混成市街地が形成されています。もともと傾斜部が多い地形で形成されておりますが、地区北部では土地区画整理事業により多くの住宅地が開発されているとともに、道路や公園等の都市基盤が計画的に整備されています。

地区南部では、自然的土地利用を活かした新林公園や川名の斜面緑地が東西に連続して、緑の景観を呈しています。

地区の骨格となる道路網は、「かながわのみちづくり計画」において交流幹線道路として位置づけられている横浜藤沢線が地区南側で未整備となっておりますが、それ以外は概ね整備を終えています。

JR東海道本線沿線では(仮)村岡新駅構想により飛躍的な公共交通の利便性が向上するとともに、現在の産業集積と併せ、今後鎌倉市と連携したまちづくり等を進めることで、大きくポテンシャルが高まることが期待されています。



2 都市づくり上の課題

- ◆一定の都市基盤整備を終えている住宅地については、この居住環境の維持・保全を図るとともに、超高齢社会における地区づくりや災害に強いまちづくりが求められます。既成市街地の川名地区等において多く残っている狭隘道路の解消とともに、広幅員道路や河川の沿線における建物の不燃化等により延焼遮断帯の強化に向けた取組が必要です。
- ◆(仮)村岡新駅構想の実現により、公共交通の利便性向上が期待されるとともに、研究所の新設等新たな産業の集積によって、地区の活力向上が予測されます。この新駅設置の機会を、地区全体でどのように活用し、また既成市街地との連携・共存のあり方について、公共交通網の再編等も含めて十分な検討が必要です。
- ◆川名清水谷戸や宮前御霊神社南側の斜面緑地等、地区南側に残る自然環境は、本市においても貴重な資源であり、これらの保全に向けた取組が必要です。また、周辺の自然環境と共生する都市基盤(横浜藤沢線、(仮)村岡新駅、宮前公園等)の整備や、新たに創出される緑との連続性が求められます。
- ◆J R東海道本線沿線の工業地においては、適正な土地利用の維持に向けた取組が必要です。



3 地区の指標

※グラフ中の数値は四捨五入を用いているため、合計が100%にならない場合があります

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

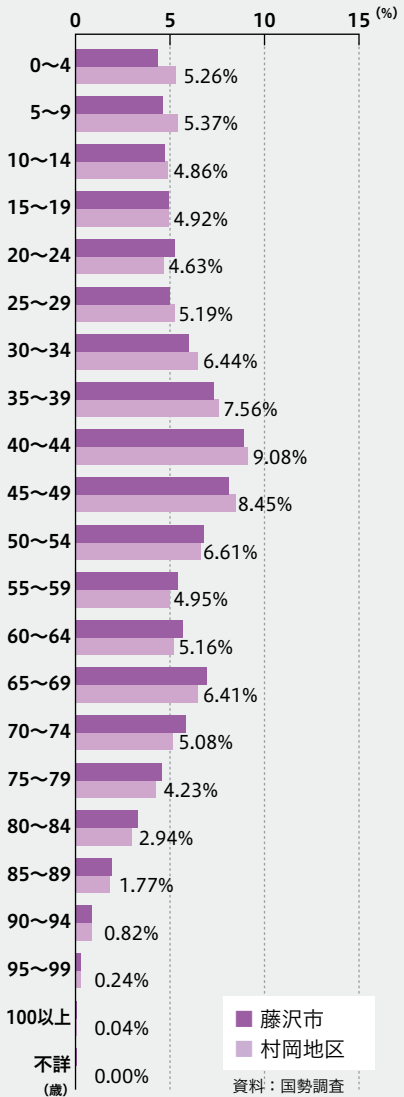
資料編

人口の状況

資料：国勢調査

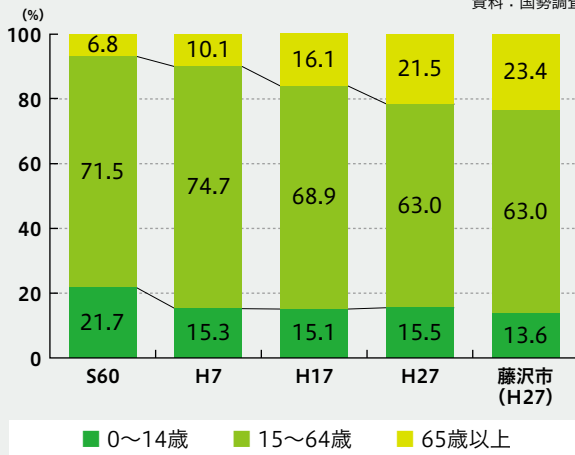
	S60	H7	H17	H27
全体(人)	19,114	22,182	26,142	29,638
増加率(%)		16.1	17.9	13.4
人口密度(人/km ²)	4,685	5,437	6,407	7,304
世帯数	6,232	8,099	9,963	11,779
増加率(%)		30.0	23.0	18.2
世帯規模(人)	3.07	2.74	2.62	2.52

年齢別人口の構成(平成27年)



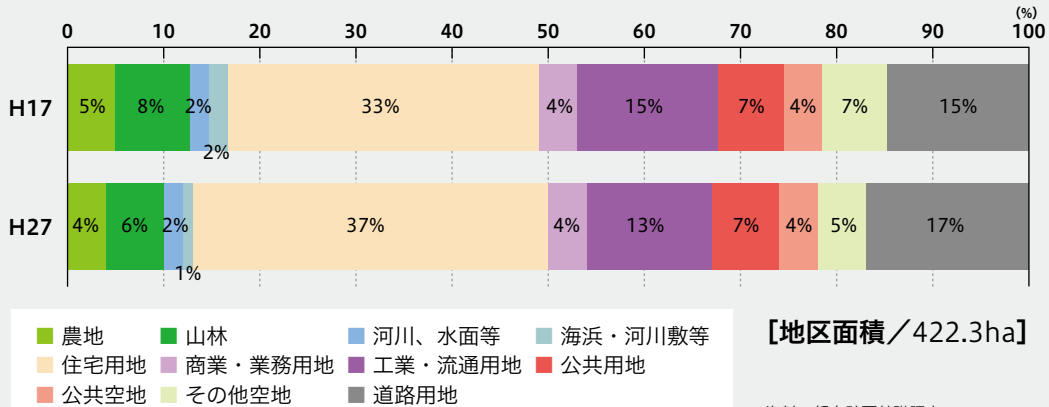
年齢三分構成比の推移

資料：国勢調査



土地利用構成割合の推移

- ・土地区画整理事業が進み、住宅地が地区の約4割と最も多い土地利用となっています。
- ・地区の特徴として、工業・流通用地が13%を占めていることがあげられます。
- ・山林等の自然的土地利用は減少しており、平成27年では1割強となっています。



[地区面積/422.3ha]

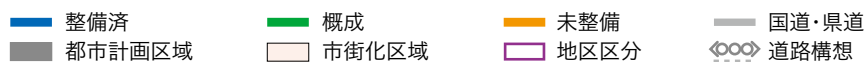
資料：都市計画基礎調査

道路・鉄軌道の状況

都市計画道路の進捗状況



- ・藤沢駅とは近接しておりますが、区内には鉄道駅は立地していません。
- ・柄沢特定土地区画整理事業により、都市計画道路が概ね整備されています。



水・緑の状況

緑地減少の状況(H17→H27)



- ・柏尾川、滝川が境川と合流し、その南側で川名緑地を中心とした斜面緑地等が残されています。
- ・地区北側では、土地区画整理事業等により緑が減少していますが、公園整備等により保全された緑地もあります。また、地区南側の斜面地でも緑が減少しています。
- ・多くの都市計画公園が整備されていますが、一部の街区・近隣公園が未整備となっています。



*土地利用現況については、都市計画基礎調査の項目変更等により、実際の土地利用の変更の有無にかかわらず、土地利用転換があったものと見なされる場合があります。 資料：都市計画基礎調査

地区の将来像

ふれ愛 ささえ愛 絆ではぐくむ“輝ら里”むらおか

歴史・自然・産業等の地域の豊かな資源を活かしながら、安心して快適に暮らし、働き続けられる地区を形成します。

(仮)村岡新駅の設置を契機とした本市の新たな玄関口となる交通拠点の形成に向け、鎌倉市と連携したまちづくりとともに、村岡公民館に加え新たな地区拠点の創出により、活動・交流の充実をめざします。

都市整備と環境保全を共存させながらまちづくりを進め、利便性が高く、ゆとりと潤いのある都市環境のもと、人と人がふれあい支え合いながら、いきいきと暮らせる地区をめざします。

まちづくりの基本方針

土地利用

①(仮)村岡新駅設置を契機とした、玄関口となる都市拠点の創出

- ◆(仮)村岡新駅周辺では、緑豊かな周辺環境と調和した都市空間を形成するとともに、鎌倉市深沢地区と一体となったまちづくりを進めます。
- ◆広域交流を育む都市拠点の形成とともに、身近な商業サービス機能、コミュニティ機能等の集積やユニバーサルデザインの導入を図ります。

②安心して暮らし続けられる居住環境の維持・向上

- ◆計画的な基盤整備を終えた住宅地では、良好な居住環境の維持・充実に向け、住民主体のまちづくりのルール等を検討します。
- ◆基盤整備が遅れている住宅地では、狭隘道路の解消や行き止まり道路を増やさない等、居住環境の改善を図ります。
- ◆災害時や緊急時に備えるため、ブロック塀の改修等、安全・安心の向上を図ります。

③工業系市街地の維持

- ◆JR東海道本線沿いにある工場・研究所等の工業系市街地を維持し、本市の活力を創出する産業拠点として充実をめざします。

交通

①交通拠点の形成と公共交通の充実

- ◆地区住民や就業者の利便性向上に向け、JR東海道本線の新駅設置とともに、併せてバスネットワークの再編等による公共交通網の充実を促進します。
- ◆公共交通結節機能を有した交通拠点として、湘南モノレール「湘南深沢駅」との連携強化を促進します。

②地区内のバス交通の維持・充実

- ◆暮らしや通勤の足として地区内外を連携するバス交通の維持・充実を図ります。

③地区の移動を支える道路網の充実

- ◆地区内における交通渋滞、通過交通流入等の解消に向け、広域幹線道路である横浜藤沢線の整備を環境との共生を図りながら促進します。
- ◆(仮)村岡新駅にアクセスする道路の整備を検討します。
- ◆地区内の幹線道路等に連絡する主要な生活道路の充実を図ります。

④安心して歩けるみちづくり

- ◆(仮)村岡新駅周辺では、ユニバーサルデザインに配慮するとともに、安心して歩いたり自転車でアクセスできる交通環境の充実を推進します。
- ◆生活道路での通過交通の排除や走行速度抑制策等により、人が主役となる生活道路づくりを検討します。

水・緑

①川名緑地を核とした緑の拠点づくり

- ◆川名清水谷戸を中心とした斜面緑地等は、新林公園や隣接する鎌倉市側の緑地と一体となった緑の拠点形成をめざし特別緑地保全地区等の指定をするとともに、緑地内に計画されている横浜藤沢線について、環境と共生する道路づくりのあり方について検討します。
- ◆本市の玄関口として、(仮)村岡新駅及びJR東海道本線沿いにおける緑空間の維持・創出や緑化を図ります。

②谷戸や河川、斜面緑地等地区をつなぐ水と緑のネットワークづくり

- ◆柏尾川や境川、滝川等の河川と、川名緑地、公園、斜面緑地等をつなぐ、幹線道路沿いの街路樹の維持・充実や緑化を図ります。

③住宅地における緑の維持・創出

- ◆歩いていける身近な公園の整備を推進します。
- ◆潤いのある居住環境維持に向け、宅地内の緑の維持・充実を図ります。

景観・防災・都市づくり等

①(仮)村岡新駅設置を契機とした協働によるまちづくり

- ◆村岡地区まちづくり計画の実現に向け、(仮)村岡新駅予定地周辺におけるまちづくりを市民や事業者、行政等との協働により進めます。
- ◆深沢地区と連携した広域拠点となるまちづくりについて、鎌倉市、神奈川県等と連携しながら検討を進めます。

②地区内の緑を活かした景観づくり

- ◆川名緑地一帯や、本市の玄関口となるJR東海道本線沿い等、緑を活かした景観の維持・充実を図ります。
- ◆住宅地では、宅地内の緑や傾斜地形により保全されている緑等を維持・活用しながら、ゆとりのある景観の維持・創出に努めます。
- ◆宅地開発等においては、既存の緑や景観へ配慮するとともに、良好な都市空間の創出に努めます。

③災害に強い市街地形成の推進

- ◆広幅員道路や境川、柏尾川沿川における建物不燃化等により延焼遮断帯の強化を推進します。
- ◆境川における治水対策を促進するとともに、滝川の治水対策や市街地の安全・安心を高める公園整備を推進します。

村岡地区将来構想図

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

資料編



都市拠点	鉄(軌)道	低層住宅専用ゾーン
地区拠点	自動車専用道路	中高層住宅専用ゾーン
緑の保全拠点	主要幹線道路	一般住宅ゾーン
都市農業交流拠点	幹線道路	集落地ゾーン
市街地検討エリア	補助幹線道路	田園ゾーン
13地区	歩行者自転車専用道路	緑地等ゾーン
公共施設	(実線:整備済)	遊水地ゾーン
学校(小、中、高、大学)	(点線:未整備・概整)	文化・教育・公共施設ゾーン
港湾	(円 :構想)	商業・業務ゾーン
水と緑のネットワーク	新たな公共交通(構想)	地域型商業ゾーン
都市計画公園(整備済(一部整備済含む))	海上交通	沿道型商業ゾーン
都市計画公園(未整備)		工業住宅複合ゾーン
		工業ゾーン
		新産業ゾーン